



# いなほの子どもを育てる

校長 佐々木 英明

平成30年度、本校は創立145年を迎える歴史と伝統のある学校です。

添川地区のほぼ中央に建てられた校舎に学ぶ子ども達は、全校生で50人。保護者や地域の方々の温かくしっかりとした支えと、健やかな成長への大いなる期待を受けながら元気いっぱい生活しています。

今年度は、5・6年生が複式学級、それ以外の学年は単式の1学級ずつです。小規模校であるが故の「強み」を生かしながら、11人の教職員が心をついに、子どもたちの無限の可能性を引き出し、皆様の期待に応えるべく尽力してまいります。どうか、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## <学校教育目標>

○心の豊かな子ども      ○進んで学ぶ子ども      ○たくましい子ども

学校教育目標達成に向け「いなほの子ども」をめざす子ども像として掲げ取り組みます。

<めざす子ども像>	「いなほの子ども」	キーワード; 『もっと自分事』
い	～ いきいき	思いや願いを持ち、いきいきとチャレンジする子ども
な	～ なかよく	考えをしっかりと伝え合って、高め合う子ども
ほ	～ ほこりを持って	自信を持って伸びようとする子ども

「いなほ」という言葉は、本校の学校文集（昭和44年創刊）につけられた名前ですが、「実るほど頭を垂れる稲穂かな」～豊かな田園地帯に建つ本校の子ども達に対する保護者や地域の方々の願いが込められた言葉です。それ以来、その願いは今も変わることなく、本校の教育活動には「いなほ」という言葉が冠され、50年近く大切に受け継がれてきました。

「いなほの子ども」は創立140周年の年に、これからの子ども達に期待する姿として、また、学校と家庭・地域が一緒になって育てていきたい子どもの姿として設定されました。

今年度も継承してまいります。

## <学校経営の方針>

- ◆「自立の力」「共生の心」「誇り」を持った「いなほの子ども」の育成
- ◆日々の授業の充実
- ◆生き方につなぐ地域のよさを感じ得る教育活動の充実
- ◆信頼される学校づくりにつなぐ評価を生かした教育活動の改善・充実



## <重点>

### 1 強くてやさしい心を持ち、共に生活をつくる子どもを育てます。

- 児童の思いや願いを引き出しながら主体的に活動する力を育てるとともに、かかわりを通じた感動体験を多く味わわせます。  
また、学級・学校の文化創造を積極的に進め、仲間意識や達成感を積み重ねることで自尊感情を向上させます。
- 互いに関心を持って接し、よさを認め合う場を大切にします。学級並びに全校での活動として「きらり活動」を位置づけ、活動の日常化を図ります。
- 振り返りを大切にしながらあいさつ運動を継続します。また、校内でのあいさつ、児童同士のあいさつ、地域でのあいさつなど、時と場に応じたあいさつができる姿を目指す姿として共有して取り組みます。
- 本校の「いじめ防止基本方針」に基づいた指導・対応を確実に行うとともに、Q-Uテストやアンケート等を定期的に行い、それらの情報の共有を大切にしながら組織的に、早期に対応していじめ等の未然防止に努めます。

### 2 いきいきと表現し、共に考え、主体的に学ぶ子どもを育てます。

- 課題解決的な学習過程の中に「とも学び」を位置づけ、児童が見通しを持ちかかわり合いながら学ぶ力を育みます。
- 言語活動を大切に扱い、書く力と話す力を鍛え、思考力・判断力・表現力の向上につなげます。また、問題提示や課題設定の工夫、「とも学び」の充実を図るなど授業の改善に取り組みます。
- 保護者と連携し、家庭学習の習慣化と自分で計画して取り組む自主学習の充実を図る指導を行います。
- 読書の時間の位置づけや読書環境の整備を図り、読書の習慣化に取り組みます（毎月第3土曜日を「添川小読書の日」と定めます）。

### 3 「いのち」をつなぎ、共に健康・体力づくりに取り組む子どもを育てます。

- 楽しさと適切な運動量を確保した教科体育を実践し、体力と技能の向上を図ります。
- 体力テストの結果分析から、子ども自身も自分の課題がわかり、目標を明確にした体育活動に取り組みます。特に持久走や短距離走の目標タイムを意識した取り組みを継続するとともに、本校の課題を克服する運動をさわやかタイムや教科体育の中に位置づけ、計画的に指導します。
- 保護者と連携しながら「こころとからだの学習」を系統的・段階的に取り組み、自他のいのちを大切に作る心と実践する姿勢を養います。特に、望ましい生活リズムを整える取り組みを計画的に実施します。
- 安全指導について、年間計画をもとに確実に行うとともに、自ら判断し、危険回避行動ができる力を育てるために、防災教育を充実させます。

